

H27 シリーズ学習会

主催 リスコミ職能教育プロジェクト（北大農）

協力 札幌消費者協会／北海道大学 CoSTEP／他



旧ポプラ並木



食資源研究棟



農学部正面



農学部のロゴ

H27 テーマ：5年目の福島～食の農の現場をつなぐ

第2回 「海はどうなったか」

【日時】 9月4日（金）12：30～15：30

【会場】 北海道大学農学部 食資源研究棟3階 セミナー室 F318
札幌市北区北9条西9丁目

【講師】 川井 浩史 さん 神戸大学 自然科学系先端融合研究環
内海域環境教育研究センター センター長

【仕組】 学習会付き意見交換会

【コメンテーター】

四ッ倉 典滋 さん

北海道大学北方生物圏フィールド科学センター 准教授

【プロフィール】



1955年京都生まれ。北海道大学大学院理学研究科で学ばれ、北海道大学理学部講師、神戸大学理学部助教授を経て、現神戸大学自然科学系先端融合研究環内海域環境教育研究センター教授、センター長。藻類がご専門で、特に褐藻類の進化と系統分類・生態に関する研究と海藻類を用いた沿岸域の環境モニタリングや環境修復などです。2011年3月11日の東日本大震災後に、藻類を使って、福島の海の放射性セシウム汚染を調査されました。お忙しい中、植物男子ベランダーとして、家庭菜園の充実に取り組んでおられます。

第1回実施済み 8月4日（火）12：30～15：30 ～農地と農作物はどうなったか～

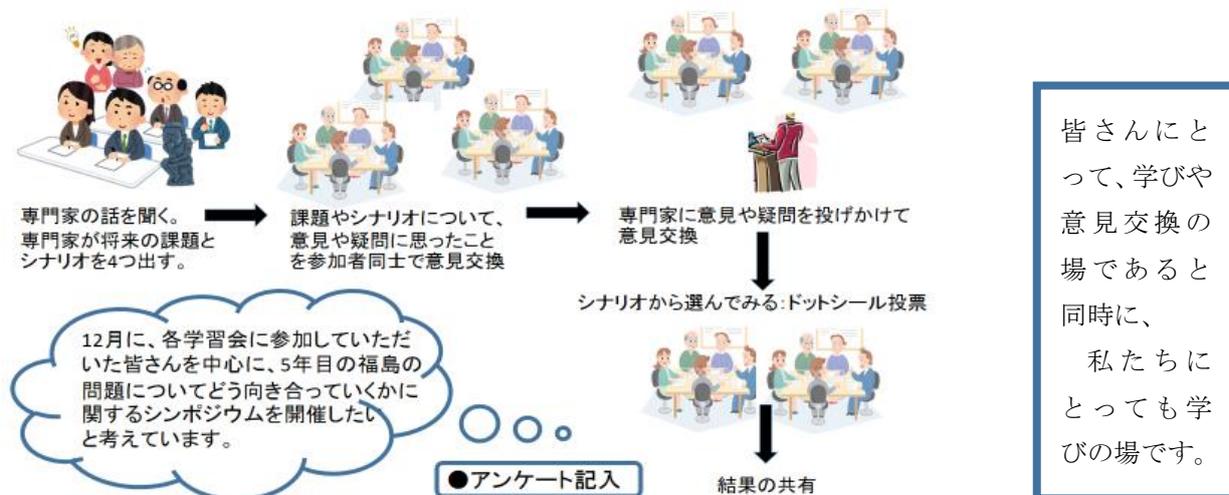
「農業再建への取り組み」 NARO 農研機構 東北農業研究センター福島研究拠点
農業放射線研究センター センター長 信濃 卓郎さん

第3回 10月26日（月） 12：30～15：30 ～メディアは私たちにどう伝えたか～

久田 徳二さん（北海道新聞編集委員）、申ハリムさん（韓国江原日報記者）

1) 内容

◆いま一度、福島のことをシリーズで学び考え、専門家とともに意見交換してみませんか？



◆言葉の説明

ポストイット： 付箋紙。考えや意見などを1枚に1つ書き込みます。何枚でも使って下さい。

(使い方のヒント)

専門家の話を聞いたりする時や、グループでの話し合いの時に使って下さい。

分かったこと・分からなかったこと・感想や意見などを書きます。

用意したラッシュンペンを使って下さい。

書き込んだポストイットPIを大判ポストイットに貼り付けます。

ファシリテーター： 話し合いや意見交換が公平に行われるよう働く進行役。

グループファシリテーター： グループに分かれた時のファシリテーターです。話し合いが円滑に公平に進むことを助ける役割です。

サブファシリテーター： グループ対話での意見の取りまとめをグループファシリテーターと一緒に支援します。ポストイットを並べ替えたりしてまとめる作業。

2) プロジェクト事業の概要

本プロジェクトは、平成26年度から5カ年計画で文部科学省の事業採択を受け実施するもので、リスクコミュニケーション能力を身につけた人材の育成を目指しています。

そのために、学習と実践の両面から構成される適正・妥当な教育カリキュラムを考察します。また、実践の場を通じリスコミの現場を知る一方、現場の人々への知識とリスコミの知を啓くことを目指します。

なお、プロジェクトでは様々なリスク問題を多角的に扱い、ステークホルダーらと共に共感を生むコミュニケーションの場を構築し、その定着を図ることを目指します。

3) シリーズ学習会の目的

学習会(3回シリーズ)は人材育成の一環として取組むものであり、参加いただいた皆さんにアンケートを実施するなどして、人材育成プログラムの構築に向けた情報収集を図りたいと考えています。12月6日に、各学習会に参加していただいた皆さんと一緒に、5年目の福島の問題についてどう向き合っていくかに関するシンポジウムを開催します。

= 9月4日のプログラム =

1. 開会

12:30~12:35 (6分) 挨拶と本日の手順及びアイスブレイキング

2. 川井先生のお話し「海藻類への放射性物質蓄積」を聴く

12:36~13:35 (60分) 知る

13:36~13:45 (10分) 聞く Q&A

3. 移動 後部グループ席 (5分) ポストイットとペンやラッショペンなどは持って移動

4. 語り合い (グループ4つ)

13:50~14:25 (35分) 語り合い (1)

- ・講師のメッセージをどう受け止めたか
- ・講師のメッセージに対し、納得できた点や納得のいかない点など
- ➡感想・意見・疑問点を出し合う(ポストイットに書いて大判PIに貼る)
- ・大判PI内で意見等の構造化作業
- ・代表質問を2つ選出・・・カーボン紙に書いてもらう(2枚!)
- カーボン紙はGFが持って、コピーは壁の大判PIに貼り付ける

14:25~15:02 (38分) 語り合い (2)

コメンテーターは講師と並んで応答に加わる

- ・グループの報告と代表質問 & 講師の回答
- 1グループの質疑応答の持ち時間は5分間 … (20分間)
- サブF3人は講師の応答をPIに書いて、壁の大判PIに貼る※
- ・15分間の自由質問※ GFも書き出しに加わる

5. 最初の席に移動 (3分間)

GFとサブFは大判PIに書き留められたものを整理する

6. しめくくり (およそ15分間)

15:05~15:09 (5分) 四ッ倉先生のコメント

15:10~15:14 (5分) 川井先生のリプライ

15:15~15:19 (5分) プロジェクト統括の小林より挨拶

7. 参加者アンケート

15:20~15:30

8. 閉会宣言 15:30

◆変更点

1. エンタ君は使わない➡ テーブル2脚を使い、その上に大判PIを置く
2. 各自PIに書き込みますが、今回はサブFの方が発言を書き留めたりもします。
3. シナリオ選択のような場面はありません。お話しを深めることに力点を置きます。

◆川井先生の立ち位置

専門家として越境した分野での生半可な回答はしてはいけないと考えるので、その際には、分からないと正直に述べられます…信濃先生と同様の立場…。

～メモ～